

常磐自動車道 守谷ＳＡ防災拠点化事業の概要

常磐自動車道守谷ＳＡについては、高速道路休憩施設を活用した被災地支援を行う防災拠点のモデル箇所として検討してまいりました。

防災拠点化した高速道路休憩施設は、首都直下地震などの広域災害が発生した際に自衛隊や消防、医療機関など緊急出動機関の前線基地となる場所を提供し、被災地への支援拠点としての役割を担います。また、被災地の救援・救護活動を効果的に行うために緊急出動機関が情報共有する場所としても活用します。ネクスコ東日本は災害発生後、速やかに災害対策室を立上げ、緊急出動機関の活動を支援します。

守谷ＳＡの防災拠点化事業においては、緊急出動機関及び災害発生時に連携する企業と防災拠点に必要な機能や活用方法について検討を行い、商業施設リニューアルの設計に反映しています。

特にＳＡ・ＰＡとしては初めての試みとして、商業施設内をレイアウト変更して緊急出動機関が共同で災害対策室として活用します。キッズスペースや大型テーブルを可動式とし、ベンチシート内部には電源やＬＡＮポートを収納するなど、災害対策室の設備を考慮した設計としています。

その他、停電時や断水時においても防災拠点として機能を発揮するために、自家発電設備や太陽光パネル、井戸などを整備しています。

(主な防災設備)

災害対策室・救護室	フードコートを災害対策室にレイアウト変更が可能 従業員休憩室を救護室としての活用が可能
自家発電設備・太陽光パネル	停電への備え　連続使用可能時間：72時間
井戸	断水への備え
ヘリポート（拡張）	中型機の離着陸が可能　夜間照明整備

今後も関係機関と検討会や防災訓練などを重ね、災害時における有効的な運用方法について、検討を行っていきます。

(これまでの取組状況)

- H24.6 防災拠点化検討委員会の発足
- H24.9 守谷ＳＡ防災拠点化実証訓練の実施
- H25.3 守谷ＳＡ防災拠点化災害図上検討会の実施

(災害発生時 : 商業施設内レイアウト変更 イメージ)

